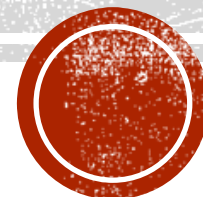


上田街歩き ～蚕都エリア～

1 2 班



蚕都エリア散策

- かつて「**蚕都**」と呼ばれ、蚕糸業で栄えた上田の蚕都エリアを散策。

その中で、

- 上田蚕種株式会社
 - 上田蚕糸専門学校
- を探索した。



探索のねらい

- 上田が「蚕都」と呼ばれるようになった理由を探る。
- 未踏の地に歩み入り、まだ知らない上田を探索する。



上田蚕種株式会社



写真の
タイトル

上田蚕種株式会社

説明文

上田・丸子の製糸業者と蚕種業者によって大正6年（1917）に設立された、蚕都を象徴する蚕種会社



写真のタイトル

上田蚕種株式会社 2

説明文

文化庁が定めた登録有形文化財、経済産業省が定めた近代化産業遺産になっている。





写真の
タイト
ル

上田蚕種株式会社 3

説明文

蚕が蛾になった装飾品と繭がアーチ状になって入り口に装飾されている。



上田蚕糸専門学校

写真の
タイトル

旧上田蚕糸専門学校講堂

説明文

信州大学繊維学部の校内にあり、現在講堂とされている。こちらも近代化産業遺産とともに有形文化財に認定されている。





写真の
タイトル

旧上田蚕糸専門学校講堂

説明文

信州大学繊維学部の校内にあり、現在は行動とされている。こちらも近代化産業遺産とともに有形文化財に認定されている。



登録有形文化財 信州大学繊維学部講堂（旧上田蚕糸専門学校講堂）

信州大学繊維学部の前身である上田蚕糸専門学校は、全国唯一の官立蚕糸専門学校で、養蚕・製糸に関する研究と、指導者育成のための高等教育施設として、明治44年(1911)4月に開校しました。当時の上田は高品質な蚕種・生糸の生産と、三吉米熊らによる人材育成により、近代日本の主要産業であった蚕糸業の発展に大きく貢献し、「蚕都上田」と称されていました。

この講堂は、文部省の柴垣鼎太郎の設計により、昭和4年(1929)に完成しました。建物は洋風の木造2階建てで、建築面積は延べ562㎡あります。屋根は切妻造で、瓦棒鉄板葺、外壁は下見板張りです。外観は正面に切妻破風を2段に重ね、三角の張り出し窓を付けた特徴ある構成をとっています。内部は大きな吹き抜けとなっており、天井は折上格天井です。2階は前後に控室を設け、側面と後方はギャラリーとなっています。細部の仕上げは、床は寄木張り、壁は木摺打漆喰大壁で、腰板張り、窓は2連の上げ下げ窓で、天井は格縁内を板張り、他の天井は木摺打漆喰としています。

建築様式は木造ゴシック系の建物ですが、時計回り、三角張り出し窓、入口の持ち送りなどの意匠には、直線による構成で機能性や合理性を重視したセセッションの様式が採用されています。

この建物で特筆すべき特徴は、蚕糸にちなんだ桑・繭・蛾の意匠が内部の各所に付けられている点です。入口天井の換気口には繭と蛾、ステージの柱には桑、アーチの縁飾りには蛾と桑、演台には蛾と繭、脇台には桑が使われています。

この講堂は、ほとんど改変を受けることなく建築当初の姿を残しており、現存する近代の中・高等教育施設の建造物としては屈指のものです。また、信州大学繊維学部を受け継がれている上田蚕糸専門学校の建学精神と、「蚕都上田」の歴史を象徴する貴重な建物です。

平成10年9月2日 登録

写真の
タイトル

旧上田蚕糸専門学校講堂2

説明文

蚕都上田を象徴する貴重な建物。昭和4年に文部省の柴垣鼎太郎の設計により完成した。建物全体がピンクがかっていて、ひときわ目立つ建物だった。

まとめ

- 今まで踏み込んだことのない場所に行って、蚕都である上田の理由がわかり、今もそれを大切にしているところが素敵だと思った。これからも守っていきたいと思った。

